

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
日本リハビリテーション専門学校	平成9年12月25日	陶山 哲夫	〒171-0033東京都豊島区高田3-6-18 (電話) 03-5954-6511			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 敬心学園	昭和61年4月11日	理事長 小林 光俊	〒169-0075東京都新宿区高田馬場1-32-15 (電話) 03-3200-9071			
目 的	作業療法士として即戦力を身につけるための専門教育を実施する。心豊かな人間性を持った医療者育成を目指し、知識や技術のみでなく総合的臨床能力を高めることに重点を置く。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療技術 専門課程	作業療法学科 (夜間部)	4年(夜)	120単位	—	平成21年文部科学省告示第25号
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		82単位	11単位	27単位	27単位	27単位
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
140人	141人	7人	20人	27人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表(有・無) ■成績評価の基準・方法について S、A、B、C、Dの5段階評価、筆記試験、実技試験、平素の学習状況及び欠席状況を総合して評価する。		
長期休み(平成24年度2年生実績)※学年により、時期が異なる場合がある。	■学年始め：4月6日 ■夏 季：8月10日～9月11日 ■冬 季：12月25日～1月4日 ■春 季：3月9日～4月3日 ■学 年 末：3月6日		卒業・進級条件	卒業要件：本校に4年以上在籍し、全科目を履修し認定を受けること。 履修方法：履修単位制。授業科目を履修して試験に合格すれば科目認定を与えられる。		
生徒指導	■クラス担任制(有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 出席状況を常に把握し、一定以上の欠席日数の学生に対し担任が指導を行っている。		課外活動	■課外活動の種類 学業に支障がない範囲でボランティア活動に参加することを方針としている。 ■サークル活動(有・無)		
主な就職先	■主な就職先、業界 病院、診療所、介護老人保健施設他 ■就職率 100.0% ■卒業者に占める就職者の割合 92.6% ■その他(任意) (平成27年度卒業者に関する平成28年3月時点の情報)		主な資格・検定	・作業療法士国家試験受験資格 ・上級救命講習		

中途退学の現状	<p>■中途退学者 7名 ■中退率 4.8%</p> <p>平成27年4月1日在学者146名（平成27年4月入学者を含む） 平成28年3月31日在学者139名（平成28年3卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更（不適性）、成績不振、健康上の理由等</p> <p>■中退防止のための取組 クラス担任制を設け、学生全員と個別面談を行い、状況の把握に努めている。一定の成績に満たない学生に対しては、自己分析の上、学習方法の改善等の特別指導を行っている。</p>
ホームページ	URL: https://www.nitiriha.com/

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

生徒の就職先となる医療機関（病院・医院等）及び介護老人施設や福祉施設（身体障害者施設・介護老人福祉施設等）における作業療法士等の人材の専門性に関する動向を踏まえながら、最新の實務に関する知識、技術、技能などを十分把握・分析したうえで、当該職業実践専門課程の作業療法学科夜間部（4年制）の教育を実施するにふさわしい授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年3月6日現在

名 前	所 属
陶山 哲夫	日本リハビリテーション専門学校 校長
高田 治実	帝京科学大学 東京理学療法学科教授
武市 裕貴	介護老人保健施設小金井あんず苑 副施設長
松岡 良幸	介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長
古川 広明	新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科長代行
山下 高介	陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士
栗原 実里	総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士
二瓶 隆一	日本リハビリテーション専門学校 名誉校長
工藤 征四郎	日本リハビリテーション専門学校 副校長・総括事務長
畠山 敦	日本リハビリテーション専門学校 教務部長兼理学療法学科総括学科長
近野 智子	日本リハビリテーション専門学校 副教務部長兼作業療法学科昼間部学科長
篠田 良平	日本リハビリテーション専門学校 理学療法学科昼間部学科長
鈴木 雅男	日本リハビリテーション専門学校 理学療法学科夜間部学科長
深瀬 勝久	日本リハビリテーション専門学校 作業療法学科夜間部学科長

(開催日時)

第1回 平成28年10月21日 15:00～16:00

第2回 平成29年 2月17日 15:00～16:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校では臨床的教育重視の観点から企業との連携による実習・演習等に関して、最新の実践的かつ専門的職業教育を行うことを基本方針として実践している。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床見学実習	リハビリテーション総合施設（1年前期）、病院・施設の作業療法部門（精神障害、身体障害、発達障害、老年期障害）（2年前期・後期）、障害者の就労関連施設（3年前期）にて、施設担当者の指導の下、見学を主体とした実習を行う。	伊奈病院、大泉生協病院、圏央所沢病院、生田病院、小平中央病院、根岸病院、松戸市こども発達センター 平成27年度49施設 平成28年度43施設
臨床実習Ⅰ	身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害分野の病院、施設において、実習施設における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ。臨床実習指導者の指導、援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握するために必要な評価を実施し、評価のまとめを行い、作業療法を計画する。	永世病院、東京青梅病院、西八王子病院、あすなろの家、東京天使病院、平和台介護老人保健施設アバンセ、江田記念病院 平成27年度43施設 平成28年度49施設

臨床実習Ⅱ	身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害分野の病院、施設において、実習施設における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ。臨床実習指導者の指導、援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握するために必要な評価、作業療法の計画・実施、その記録報告、再評価という一貫した作業療法行為を修得する。	青梅慶友病院、東京武蔵野病院、ふじの温泉病院、介護老人保健施設葛飾ロイヤルケアセンター、多摩丘陵病院 平成27年度62施設 平成28年度60施設														
3. 教員の研修等																
<p>(教員の研修等の基本方針)</p> <p>日本リハビリテーション専門学校教職員研修規程に基づき、専修学校の専門課程の職業実践専門課程の認定の趣旨に鑑み、時代の流れに沿った最新の医療・福祉・保健等に関する社会のニーズを反映した教育活動を実践していくため、これまで以上に、研究レベル及び実務レベルの医療や福祉又は保健等の学会や研修会に教職員が積極的に参加して、資質の充実向上を図っていくことを教職員研修等基本方針とする。</p>																
4. 学校関係者評価																
(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)																
平成29年3月6日現在																
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="165 907 475 947">名 前</th> <th data-bbox="475 907 1385 947">所 属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="165 947 475 987">高田 治実</td> <td data-bbox="475 947 1385 987">帝京科学大学 東京理学療法学科教授</td> </tr> <tr> <td data-bbox="165 987 475 1028">武市 裕貴</td> <td data-bbox="475 987 1385 1028">介護老人保健施設小金井あんず苑 副施設長</td> </tr> <tr> <td data-bbox="165 1028 475 1068">松岡 良幸</td> <td data-bbox="475 1028 1385 1068">介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長</td> </tr> <tr> <td data-bbox="165 1068 475 1108">古川 広明</td> <td data-bbox="475 1068 1385 1108">新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科長代行</td> </tr> <tr> <td data-bbox="165 1108 475 1149">山下 高介</td> <td data-bbox="475 1108 1385 1149">陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士</td> </tr> <tr> <td data-bbox="165 1149 475 1182">栗原 実里</td> <td data-bbox="475 1149 1385 1182">総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士</td> </tr> </tbody> </table>	名 前	所 属	高田 治実	帝京科学大学 東京理学療法学科教授	武市 裕貴	介護老人保健施設小金井あんず苑 副施設長	松岡 良幸	介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長	古川 広明	新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科長代行	山下 高介	陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士	栗原 実里	総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士		
名 前	所 属															
高田 治実	帝京科学大学 東京理学療法学科教授															
武市 裕貴	介護老人保健施設小金井あんず苑 副施設長															
松岡 良幸	介護老人保健施設ふれあいの里 リハビリテーション課長															
古川 広明	新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科科長代行															
山下 高介	陽和病院 社会療法部作業療法室作業療法士															
栗原 実里	総合東京病院 診療技術部リハビリテーション科作業療法士															
(学校関係者評価結果の公表方法)																
URL: https://www.nitiriha.com/evaluation																
5. 情報提供																
(情報提供の方法)																
URL: https://www.nitiriha.com/evaluation																

(別紙様式 4)

授業科目等の概要

(医療技術専門課程作業療法学科夜間部) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			心理学	作業療法士として、患者さんや利用者さんを十分に理解し、支援していくために、人間理解の方法として「心」を知る知識と技術を紹介し、実践していきます。	1 前	3 0	2	○		
○			哲学	医療倫理の諸問題を合理的に検討する姿勢と方法を身につける。	1 後	2 4	1	○		
○			教育学	最近の教育事情を把握するとともに、教育学の基礎的知識を学ぶ。また、授業を通じて、自分自身の学びを再点検すること、人間・社会等を理解する為の視野を広げることをねらいとする。	1 後	2 4	1	○		
○			学習支援演習	医学教育における学習方法の習得、レポートの作成方法を学ぶ。	1 前	3 0	2	○		
○			社会学	人間がいかにして社会的存在となり、市民社会の成員となっていくのか、人間と社会の関係を通して理解し、社会性を育む。違いをもった人間が共生できる社会について学習し、考える力を養う。	1 後	2 4	1	○		
○			統計学	パソコンでデータを整理する作業を通じて、統計の基本概念・論理を理解してもらう。	1 後	2 4	1	○	△	
○			情報科学	パソコンを身近な道具として使用できるように、パソコンについての知識を身につけ活用できるようにする。	1 前	3 0	2	○		
○			保健体育	身体のしくみを自分自身の身体で感じ、臨床現場で役立つ実践的な運動効果の知識と技能を習得する。	1 前	3 0	2	○		
○			英語	リハビリ関係の英文の話題についていけるような語彙を身につけるとともに、簡単な英語のやり取りをマスターする。	1 後	3 0	2	○		
○			解剖学 I	運動器系を構成する骨・関節の構造を理解する。	1 前	2 4	1	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			解剖学Ⅱ	神経系を構成する神経組織および神経系の発生を理解したうえで、神経系（中枢神経系、末梢神経系）の構造を理解する。	1 前	2 4	1	○		
○			機能解剖学Ⅰ	運動器系を構成する人体各部の筋の位置と構成を理解する。	1 前	2 4	1	○		
○			機能解剖学Ⅱ	人体を構成する各系統に所属する諸器官は、上皮、支持、筋、神経の4組織により構成されている。その器官の三次元構造を細胞・組織レベルで体得・理解する。	1 後	2 4	1	○		
○			解剖学実習	人体の内臓（消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系）、感覚器、循環器系を構成する各器官の構造、およびこれら器官の発生を理解する。	1 後	3 0	1			○
○			生理学Ⅰ	人体の生理機能についての基本的な知識の習得を目的とする。	1 前	2 4	1	○		
○			生理学Ⅱ	人体のもつ諸機能の基本的な働きと調節について習得することを目標とする。	1 前	2 4	1	○		
○			生理学実習	人体の生理機能についての理解を深める。	1 前	3 0	1			○
○			運動学Ⅰ	解剖学・生理学の知識をもとに運動学に必要な用語や考え方を学ぶ。	1 後	2 4	1	○		
○			運動学Ⅱ	解剖学・生理学の知識をもとに運動学に必要な用語や考え方を学ぶ。	2 前	2 4	1	○		
○			運動学実習	正常な人間の運動・動作を観察・分析し、運動学の用語を用いて表現・記載することができるようになる。	2 前	3 0	1			○
○			人間発達学	作業療法士として働くために、各世代の患者様の各機能の発達を理解し、評価や治療などに役立てる。	1 後	2 4	1	○		
○			臨床心理学	臨床心理学の基礎理論と心理臨床の技法の学習と実習	1 後	3 0	2	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			内科学・老年学	医療専門職としての必要な内科疾患の病態・検査・治療について理解する。リハビリテーションの領域は内科疾患を持つ患者が多くまた高齢者が増加している。高齢者の病態を理解することも必須となってきた。	2前	30	2	○		
○			整形外科学	リハビリテーションに必要な整形外科学の知識の習得を目標とする。	2前	30	2	○		
○			神経内科学	神経系の機能について知り、その異常によって生じる症候や徴候を学ぶ。	2前	30	2	○		
○			小児科学	小児の成長・発達・生理の各年齢による理解し、小児の健全育成に寄与する。	1後	15	1	○		
○			精神医学	作業療法における精神医学の役割についての理解	1後	30	2	○		
○			病理学概論	国家試験に出題される範囲内での病理学の基本的な知識を理解する。	2前	15	1	○		
○			病態運動学Ⅰ	疾患と症状、運動機能障害と評価との関連を理解する。	2前	24	1	○		
○			病態運動学Ⅱ	疾患の特性(病態)を理解し、運動学、解剖学、機能解剖学の知識と統合する。	2後	24	1	○		
○			リハビリテーション医学概論	リハビリテーション医学概論に関する基本的知識を習得する。	1前	30	1	○		
○			社会福祉概論	障害者や高齢者の福祉は介護保険制度、障害者自立支援法等により、福祉サービスを自ら選択し、給付を受け、負担をする制度になりました。子育て支援のための制度も整備されつつあります。また、福祉に係わる制度の内容について学ぶ。	2後	24	1	○		
○			作業療法概論Ⅰ	作業療法士の資質と適性を学ぶ。作業療法の概念、用語を学ぶ。作業療法の哲学と歴史を知る。リハビリテーションサービスにおける作業療法の役割を知る。	1前	24	1	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			作業療法概論Ⅱ	課題学習、グループワークを通じて学習方法を会得するとともに、チーム医療における対人援助職としての基本的な態度を修得し、行動する。	1 後	2 4	1		○	
○			作業療法特講	作業療法における症例を基に、実際の臨床現場で行われる評価、援助を学ぶ。	3 前	2 4	1	○		
○			作業療法研究法	作業療法における研究の意義を考え、研究に必要な基本的な知識・技術を習得する。研究法の学習を通して、問題解決への積極的な意欲と探求心を養う。	3 後	1 5	1	○		
○			基礎作業学	作業療法士として、作業を治療・指導・援助に適切に使用するために、人間と作業に関する生物的・心理的・文化的関係を説明できる。作業活動を分類し、分析するために基本的な知識を説明できる。	1 後	2 4	1	○	△	
○			基礎作業学演習	作業療法的手段として用いられるいくつかの種目に関して、具体的にその手順・工程を実習し、技法の基本（特性、必要な身体機能・精神機能、材料・器具の特徴と使用法など）を学ぶ。	1 後	2 4	1		○	
○			臨床見学セミナー	見学実習に向けての準備を各領域ごとに整理する。見学実習での振り返りを行う。	2 後	3 0	1		○	
○			身体障害評価学Ⅰ	身体障害者分野における作業療法評価の目的・方法を理解する。各種評価法の基礎的な知識、技能を習得し、健常者に対して正しく実施できる。	1 後	3 0	1	△		○
○			身体障害評価学Ⅱ	身体障害分野における、作業療法評価の意義、目的・方法を理解する。各種評価法の基礎知識、技術を習得する。	2 前	4 8	1	○		
○			身体障害評価学演習	身体障害分野で関わる疾患の障害像を理解できる。評価を適切な手順で、かつ安全性に配慮して実施できるようにする。また得られた評価結果を分析する。	2 後	4 5	2	○		
○			発達障害評価学	発達障害者分野における作業療法評価の目的・方法を理解する。各種評価法の基礎的な知識、技能を習得する。	2 前	3 0	1	○		
○			精神障害評価学	精神障害のある人を少しでも理解し、援助するための基礎技法を修得する。精神障害のある人に作業療法（作業活動）を活用するための基礎技法を修得する。	2 前	3 0	1	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			作業療法基礎演習	作業療法評価、治療に関する検査方法、作業活動を修得する。症例検討を通して各領域の作業療法の流れについて学ぶ。	2後	60	2			
○			作業療法臨床セミナーⅠ	事例報告を中心とした相互学習を通じて、実習経験を共有し、次期の評価実習やインターン実習で必要な知識を確認する。	3後	60	2	○		
○			作業療法総合演習Ⅰ	評価実習に向けた準備として、小グループでの演習および実習形式で学習し、面接、評価および治療技法を修得する。	3後	60	2		○	
○			身体障害治療学Ⅰ	各機能障害に対する手段について習得する。	2前	30	1	○		
○			身体障害治療学Ⅱ	各疾患の障害像、特性を理解する。対象者に対して適切な手順で評価を実施できる。また、得られた評価結果を分析し、必要な治療手段を選択できる。	2後	30	1	○		
○			身体障害治療学Ⅲ	ハンドセラピー、義肢装具学などを中心に、身体障害分野の評価手技、治療手段を学ぶ。	3前	30	1	○		
○			身体障害治療学演習	身体障害分野の評価を対象者の症状に合わせて適切に選択・実施できる。また、得られた評価から各対象者に合わせた治療プログラムを選択できる。	3前	45	1	○		
○			発達障害治療学Ⅰ	評価学で修得した内容を基に、対象となる疾患および障害をより深く理解し、作業療法士としての具体的な支援方法を学ぶ。	2後	30	1	○		
○			発達障害治療学Ⅱ	評価学、治療学Ⅰで修得した内容を基に、対象となる疾患および障害をより深く理解し、作業療法士としての具体的な支援方法を学ぶ。	2後	30	1	○		
○			発達障害治療学演習	発達に何らかの障害をもつ子供たちに対する作業療法を実施するうえでの理念と役割の再学習。障害別作業療法の実際を理解し、評価、援助が実施できるようになることを目指す。	3前	45	1		○	
○			老年期障害治療学	「高齢期を取り巻く状況」「高齢者の心身の特徴」「認知症」などの知識を学習し理解する。障害を持つ高齢者に対する作業療法はもちろんのこと、現在健康である高齢者へのかかわりも含めて作業療法がどうあるべきかを学習する。	3前	48	2	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			精神障害治療学Ⅰ	精神障害のある人を少しでも理解し、援助するための基礎技法を修得する。精神障害のある人に作業療法（作業活動）を活用するための基礎技法を修得する。リハビリテーション支援としてのチームアプローチを目指す作業療法士の役割と意義を理解する。	2 後	3 0	1	○		
○			精神障害治療学Ⅱ	治療学Ⅰで学んだことを踏まえ、精神障害のある人を少しでも理解し、援助するための基礎技法を修得する。精神障害のある人に作業療法（作業活動）を活用するための基礎技法を修得する。リハビリテーション支援としてのチームアプローチを目指す作業療法士の役割と意義を理解する。	2 後	3 0	1	○		
○			精神障害治療学演習	精神障害に対する作業療法を実施するために、基本的な障害に対する作業療法技法を実習、演習し習得する。精神障害の作業療法の実際を実習、演習し理解する。	3 後	4 5	1	○		
○			高次脳機能障害治療学	高次脳機能障害を理解できる。高次脳機能障害を有する患者を評価できる。高次脳機能障害に対するアプローチを理解できる。	3 後	3 0	1	○		
○			日常生活活動学	疾患特性から生じる日常生活動作上の障害について理解する。	2 後	3 0	2	○		
○			日常生活活動学演習	日常生活活動学を学んだ知識を基盤に、ADL実習を通し作業療法評価ならびに援助を行ううえで必要な知識・技術を習得する。	3 前	4 5	1		○	
○			職業関連活動学	職業リハビリテーションの理念および障害者の就労支援の現状を理解する。職業リハビリテーションにおける作業療法士の役割および職業関連活動に関する基礎知識と技法を習得する。	3 前	2 4	1	○		
○			作業療法総合演習Ⅱ	総合臨床実習に向けた準備として、小グループでの演習および実習形式で学習し、評価および治療技法を修得する。また、小グループでの演習形式で専門基礎および専門分野の知識の定着をはかる。	4 後	6 0	2		○	
○			作業療法特論	作業療法の評価、治療を各領域ごとに学習し、知識を活用できる能力を身につける。	4 後	3 6 0	1 2	○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			作業療法臨床 セミナーⅡ	実習直前に準備教育を行い、臨床能力の向上を目指す。具体的には臨床実習Ⅱに行く前に実習準備として、知識の整理を行う。実習終了後には実習で経験したことを振り返り、知識と経験の定着を促す。また、臨床実習Ⅱの終了後、事例報告を中心とした相互学習を通じて、学習経験を共有し、次期インターン実習で必要な知識を確認する。	4 後	6 0	2		○	
○			地域作業療法 学Ⅰ	地域リハビリテーションの理念について理解し、それに係わる職種について知る。また、職種間の連携について理解し、作業療法の役割と実際について理解を深める。	3 後	3 0	2	○		
○			地域作業療法 学Ⅱ	対象者の能力や生活スタイルに応じた福祉機器の導入・住宅改修について理解する。	4 後	3 0	2	○		
○			臨床見学実習	病院・施設のしくみや役割および、その中で働く作業療法士の役割を理解する。作業療法の対象疾患や障害像を知る。社会人、医療人としての基本的態度を学ぶ。	2 後	4 5	1			○
○			臨床実習Ⅰ	作業療法の臨床の現状への理解と見聞を深める。対象者に対する検査・観察・面接などを体験し、その情報から対象者の状態像を考察し、治療計画を立案する技術を体得する。	3 後	2 7 0	6			○
○			臨床実習Ⅱ	作業療法の臨床の現状への理解と見聞を深める。対象者に対する検査・測定・観察・面接などを体験し、その情報から対象者の状態像を考察する技術を体得する。	4 前	7 2 0	1 6			○
合計				70科目	3459単位時間(120単位)					